

# 〈ケア〉を考える会 (第113回)

■日時：2017年 **7月9日** (日) 13:30~17:30

■会場：京都市山科区安朱中溝町3-2  
山科駅より東 徒歩3~4分の民家  
(山添) (安朱保育園 東隣)

■当日の大まかな予定

13:00 ⇒ 有志集合…会場準備等  
13:30~ ⇒ 学習会  
15:30頃~ ⇒ 懇親会(笑いヨガ/音楽演奏も)  
17:00~17:30 ⇒ 片付け、終了  
(その後で、名残惜しコーヒータイム?)

■内容

## (1) 学びの会

**「高齢者ケアにおける自己決定を考える」**

**浜渦辰二さん(大阪大学教授・臨床哲学)を  
囲んで お話を伺って 対話します。**



## (2) 懇親会

食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

※懇親会参加者で実費(1000円程度)ご負担願います

★ **今回に限り、参加申し込みが必要です。**

氏名、メールアドレス、電話を明記ください。

⇒ 林まで：[884michiya@gmail.com](mailto:884michiya@gmail.com) 090-5366-1497

★ どなたでも参加できます(初参加歓迎)。先着20名程度。  
定員になり次第締め切ります。  
満席となりお断りする場合にはのみ、連絡いたします。

## 浜渦 辰二 (はまうず-しんじ)

▼大阪大学文学研究科(中略)の教員として、臨床哲学・倫理学を教えています。

▼ケアの臨床哲学という構想をベースにしながら、大阪・京都・神戸を中心とする関西地区の一般市民および対人援助職(医師・看護師・薬剤師・理学療法士・音楽療法士・介護福祉士・病院ボランティア)の方々とともに、また、「患者のウェル・リビングを考える会」(神戸)や「〈ケア〉を考える会」(京都・岡山)や「高齢者外出介助の会・からほりさろん」(大阪)とともに、「ケアの臨床哲学」研究会を運営しています。  
(「はまうず・ホームページ」より)

▼高校時代、倫理社会という科目には何の魅力も感じませんでした。実を言いますと、倫理社会のテストの時、白紙答案を出して、先生から職員室に呼び出されたことがあります。高校時代の成績表を見ると、倫理社会の成績が群を抜いて最低で、10段階評価の2でした。その私が、いまでは、倫理学の講義をするために教壇に立っています。当時の私からすれば、成績が最低の科目を自分の職業として選んだことになり、人生とはこういうものかと思っています。

(大阪大学大学院/臨床哲学研究室 ホームページより)

▼参考 (「はまうず・ホームページ」より 主な研究業績の紹介 [学術論文])

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/gyouseki/gyou-ha2.html>

・「生老病死と共に生きる ―ケアの臨床哲学にむけて―」

[http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/gyouseki/live\\_birth\\_aging\\_illness\\_death.pdf](http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/gyouseki/live_birth_aging_illness_death.pdf)

・「ドイツにおける事前指示書の法制化の内実 ―自律と依存を両立させる試み―」

[http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/clph-care/culture\\_philosophy\\_32\\_hamauzu.pdf](http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/clph-care/culture_philosophy_32_hamauzu.pdf)

・「グリーンケアのために ―臨床哲学からのアプローチ―」

[http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/gyouseki/griefcare\\_No5\\_2015.pdf](http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/gyouseki/griefcare_No5_2015.pdf)



わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷗田清一『老いの空白』P.227)

ひととひととの関係において重要なものは、各人が主体的にどのようにしようとしているかではなくて、いつとはなしにお互いが心を開いてしまっているという事態である。

(池上哲司『傍らにあること』P.169)

おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。

対話には結論はありません。プロセスをゆたかにできなくては。

(長田弘『なつかしい時間』P.191)

「〈ケア〉を考える会」ホームページ  
<http://care-kyoto.jimdo.com/>

「〈ケア〉を考える会-岡山」  
<http://okayama-care.jimdo.com/>